

## (公財) 日本ヘルスケア協会から

発行：日本ヘルスケア協会 事務局

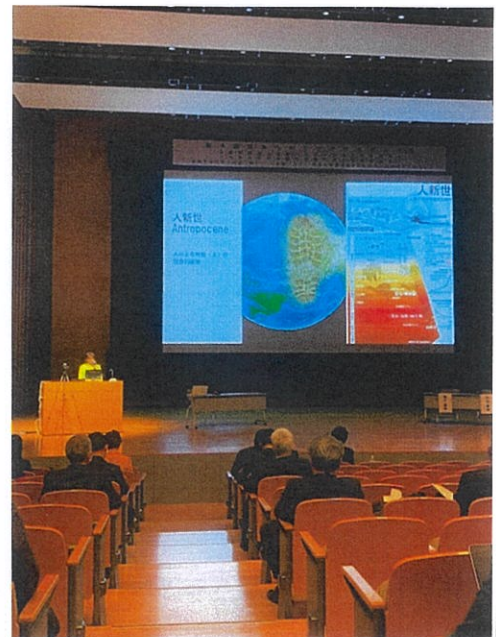
今回は2月14日の前回定時記者会見以降の動きについてご報告いたします。

### 1. 第4回年次大会・JAH1 活動発表会が3月17・18日の両日リアル開催されました。

2023年3月17日(金)・18日(土)の両日、第4回日本ヘルスケア学会年次大会・公益財団法人日本ヘルスケア協会活動発表会がJAH1の公益財団法人認定を記念して、3年振りにリアル開催されました。会場は明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモンビル。アカデミーホールでは基調講演・口頭発表・協賛団体報告・関係官庁報告・特別講演が、またビクトリーフロアでは教育講演・フレイル対策セミナーが、さらに9階教室ではポスター発表・機器商品展示が行われました。

今回の年次大会を通じて注目されたのは「プラネタリーヘルス」という概念です。人と地球の全てのシステムは相互に依存し合い、密接に繋がっているという考え方を前提に、人を含む地球の全体最適化を目指す最も統合的なヘルスケア概念であり、時に利害がぶつかり勝ちな「持続可能な開発目標(SDGs)」の各項目を有機的に繋げ、SDGsの全体的な推進にも繋がる考え方です。ロックフェラー財団と世界的な医学誌「ランセット」が「地球全体の健康」に関する共同委員会の報告書として2015年7月に発表して以来、国際的な研究や実装が進められているもので、世界では潮流になっています。

本年次大会では、光文社新書『腸(ちょう)と森の「土」を育てる』で話題を集める気鋭の内科医であり、認定産業医でもある桐村里紗医師を迎え、基調講演「ヒューマンヘルスからプラネタリーヘルスへ」が提唱されました。危機的状況にある人の健康と地球の健康の



現状認識と、その原因を作ったのは無自覚な人類の経済活動によるものであるとの指摘を基に、人を部分最適化するヘルスケアではなく、人類の健康を実現しながら、同時に社会、生態系、地球システムの健全性を実現するプラネタリーヘルスへの具体的なアクションのヒントの提示や、桐村医師が鳥取県江府町に移住して町とともに取り組んでいる「鳥取江府モデル」等が紹介されました。基調講演に引き続いて行われたパネルディスカッション「プラネタリーヘルスにつながる食と農」(司会：(株)生科研・中嶋常務)では、JAH1 野菜部会・丹羽部会長、お米部会・柏原部会長を交え、食習慣による生活習慣病の増加、農法の変化による地球環境の悪化、現代人のカロリー摂取の量的不足・質的不足、世界で最も持続可能な水田農業、世界人類に提案された食事法「プラネタリーヘルス・ダイエット」等が論じられました。

さらに教育講演では、早い時期から土壌を形づくる腐植物質の働きに注目され、腐植物質が植物が必要とする養分に変わるプロセスを研究されてこられた青山正和・弘前大学名誉教授が「土壌と作物の健康を支える腐植物質」を講じられました。

という訳で、ヒトの健康は安心安全な食べ物によって支えられ、安心安全な食べ物は健全な土壌によって作られるという近年の当協会の主張と同方向のご講演が並びました。

なお、ペットケア、在宅歯科診療、管理栄養士の活躍、ファーストエイド、フェムテック、セルフチェック、健康経営、アルツハイマー病対応等、それぞれ現代的で喫緊のテーマを取り扱った他の教育講演も目白押しで、小規模ながら重要な年次大会となりました。

### 2. 弊協会は近く事務所移転を計画しています。

今夏、中央区に移転予定の新事務所には、ミニセミナーが開催できるスペースを確保、部会・研究会・委員会等、関係各位が頻繁に情報交換・交流できる場とする計画です。